

地域医療構想調整会議における 議論の進め方(その2)

第9回検討会における主なご意見

【調整会議について】

- 構想区域の全ての医療機関が参加するのが理想だが、難しければ別の場を作って色々なデータを共有し検討することで、議論がスムーズに進むのではないか
- 1年サイクルの検討も必要であるが、2025年を見据えた、長期的な視点での議論が重要であり、進め方の整理が必要ではないか

【データブックについて】

- 使用できる人の範囲や、地域で分析等に協力してくれる人へのデータ提供について、もう少し柔軟な運用方法にはどうか

【病床機能報告データについて】

- 今後は、病棟コードを活用し、病棟ごとに具体的な医療の内容も踏まえた議論が必要ではないか

地域医療構想調整会議の進め方(平成29年度)について(案)

▽ : 国から都道府県へ進捗確認

		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
国	全ての都道府県で構想策定完了予定		<ul style="list-style-type: none"> 都道府県職員研修(前期) データブック配布及び説明会 基金に関するヒアリング 			<ul style="list-style-type: none"> 都道府県職員研修(中期) 地域医療構想の取組状況の把握 			<ul style="list-style-type: none"> 都道府県職員研修(後期) 病床機能報告(平成29年度)の実施 						
都道府県	<p>(第7次医療計画に向けた検討を開始)</p> <p>●具体的な機能分化・連携に向けた取組の整理について</p> <ul style="list-style-type: none"> 県全体の病床機能や5事業等分野ごとの不足状況を明示 <p>●病床機能の分化・連携に向けた好事例や調整困難事例について収集・整理(国において全国状況を整理)</p> <p>●地域住民・市区町村・医療機関等に対する情報提供(議事録の公開、説明会等)</p>														
調整会議			<p>1回目</p> <p>●病床機能報告や医療計画データブック等を踏まえた役割分担について確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 各医療機関の役割の明確化 各医療機関の病床機能報告やデータブックの活用 不足する医療機能の確認 			<p>2回目</p> <p>●機能・事業等ごとの不足を補うための具体策についての議論</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域で整備が必要な医療機能を具体的に示す 病床機能報告に向けて方向性を確認 			<p>3回目</p> <ul style="list-style-type: none"> 機能ごとに具体的な医療機関名を挙げたうえで、機能分化・連携若しくは転換についての具体的な決定 			<p>4回目</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な医療機関名や進捗評価のための指標、次年度の基金の活用等を含むとりまとめを行う 			

地域医療構想調整会議の具体的な進め方(平成29年度)について①(案)

1回目(春頃)

● 病床機能報告や医療計画データブック等を踏まえた役割分担について確認

1. データを用いた地域分析による現状把握を関係者間で共有し、理解する
(様々な会議の場等の活用)

- 調整会議のみでは関係者への共有・理解が困難な場合、その他の場について検討・実施する
例: 都道府県医師会や病院団体等による勉強会の開催
既存の地域連携の会などの場を活用

(活用するデータの分析・評価)

- 活用するデータについては、その分析の結果だけでなく、データの持つ特性等についても共有することで、結果の解釈に対する理解を深めることが必要(国においては、データブック等の運用方法について改めて周知)
例: 県の担当者だけでなく、地元医師会や病院団体等の関係者や大学の有識者が共同して、データの分析・評価を実施

(地域の関係者・住民との情報の共有等)

- 共有されたデータに関して出された意見等も含め、住民等に情報提供する際は、その理解が進むように、解説等を加えた上で公表する
例: 住民等に対しては、データを取捨選択し、ポイントを絞って分かりやすいグラフ等を作成し、解説を添えて公表

● 病床機能報告や医療計画データブック等を踏まえた役割分担について確認

2. 区域内の医療機関を、現状において担っている役割等に応じ、データを確認する

(各医療機関の担っている役割の確認)

- ・ 救急医療や災害医療等を担う医療機関の現状について確認を行う
 - － 第6次医療計画において、どのような役割分担になっていたのか
 - － データ等を活用し、その役割が担われているかどうか
- ・ 第7次医療計画の策定に向けた検討状況も随時共有する

■ 救急医療に着目した場合

救急医療を担っている医療機関ごと(3次救急、2次救急、救急告示)の救急車受入実績等
救命救急入院料の算定件数、救急医療管理加算の算定件数等

■ 災害医療に着目した場合

災害拠点病院と地域のその他医療機関との役割分担について

■ 周産期医療に着目した場合

総合周産期特定集中治療室管理料の算定件数、ハイリスク分娩管理加算の算定件数等

● 機能・事業等ごとの不足を補うための具体策についての議論

1. 構想区域内の各医療機関について、機能別にみた場合に、現状において担っている役割と将来の機能等について確認する

(各医療機関の担う役割について確認)

- ・ 病床機能報告の病床数と、将来の病床の必要量を比較し、不足する医療機能について検討

■ 回復期機能に着目した場合

<現状の評価>

- ・ 担っている役割について(例:急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療、回復期リハビリテーション機能)
- ・ 病棟に配置されているスタッフ数(PT、OT、STなど)
- ・ 実施されている、疾患別のリハビリテーション実施件数等

<将来との比較>

- ・ 地域の高齢化の進展等を踏まえたニーズの変化
- ・ それに伴い増加する将来の病床の必要量

<方向性の検討(例)>

- ・ 看護師等のマンパワーを考慮した場合、いずれの医療機関(病棟単位が基本)が将来回復期を担うのか
- ・ 例えば、現状、急性期と報告している比較的人員配置の薄い医療機関が回復期を担うこととした場合、地域全体として不足する機能をカバーできるか
- ・ 上記でカバーできない場合に、現状において、急性機能を担っている他の医療機関のうち、一部の病棟の機能を回復期に転換するといった場合に、地域でいずれの医療機関が担うのか

● 機能・事業等ごとの不足を補うための具体策についての議論

1. 構想区域内の各医療機関について、機能別にみた場合に、現状において担っている役割と将来の機能等について確認する

■ 高度急性期機能に着目した場合

<現状の評価>

- ・ 特に、高度急性期機能については、果たす機能等を踏まえ、地域によっては、1つの構想区域ではなく、複数の構想区域をカバーすることから、現状の評価においても、その点に留意が必要
- ・ 構想区域(もしくは県全体)において、高度急性期機能として必要な医療機能を確認
 - － NICU等の配置状況、稼働状況等について(近年の推移等も含め)

<将来との比較>

- ・ 病床の必要量の推計において、すべての構想区域に高度急性期に相当する病床の必要量が見込まれているが、現状と将来との比較においても、広域的な視点での比較が重要

<方向性の検討>

- ・ 特に、高度急性期の機能をどのように地域で役割分担するのかについては、病床機能報告において高度急性期と報告している医療機関から、現にどのような医療を行っているのか、今後、どのような高度急性期機能を担うことができるのか等について、調整会議でヒアリングを行うなどしてはどうか